



問題迎えた水俣病問題

厚生省食品衛生調査会の常任委員は三日、水俣病の原因が「ある種の有機水銀化合物」であるとの断定を下した。この結果を直ちに厚生大臣に密申し、関係省庁の対策を放棄することになり、水俣問題は一つの転機を迎えることとなった。

有機水銀化合物と断定した理由として▽水俣病の主な症状はハシなどがにぎれなかったり、マツチがすれない、目は異常な感じがもたれて視野がせまくなる、手足の感覚がマヒするの三点、これは有機水銀化合物の中毒症状と非特異的である。患者の尿中の水銀排泄量が対照例に比べ多量▽脳、肝、腎臓などに水銀が対照例に比べ多量に検出される▽湾岸の沼市には他地区に比べ多量の水銀が検出される▽この地区からとった魚貝の体内にも多量の水銀が検出される。この点をネコその他の動物に与えると自然発熱と同じ病状を呈する……など八つをあげている。ただ食品衛生調査会としてはあくまで「医学的見地」から対策を立てるまでの落胆原因を打ち出したのであり、新日鐵工場廃水と関係があるかどうかは調査のウラ外で、今後各

省庁の連絡協議会がその真因を衝くことになる。
いずれにせよ原因追及は大きく前進した。加大に医学研究班が組織され「奇病」の原因究明をはじめから三年ぶりである今後の問題点は、なぜ有機水銀化合物が魚介類にひそんでいるか。水俣湾内の沼市にはたしかに無機水銀が含まれているが、どうしてそれが魚介類に入って毒性のある有機水銀に変わるのか……といった点である。

知事あつせんに要出す

流血さわぎまで発生した現地の状況は、県長名で漁民と工場側のあつせんに知事を立てる動きとなり、県漁連の方は十日に会長名で正式に寺本知事へあつせんを依頼した。いっぽう東京では三日に地元選出代議士らの協力もあって、吉岡新日鐵社長が知事にあつ旋を依頼することになった。この結果地元の有機者を結束したあつ旋機関を設けて話し合いが進められることになる。このような状況の変化からみて、十五日の漁民集会による危機は二回回避されたものとみられる。

不知火船に昇切り

熊本津奈木村の漁民が不知火での操業に目切りをつけ、八日四時が対馬海城への近海漁業へ船出していった二ニュースは水俣病の暗い出来事ながら明るい話題をよんだ。村当局と漁協で船の装備に補助金を出して激励しており、今後の賛同策へ一つの光を投じたものと出漁の結果が期待されている。

七万人の抗議大会

三献祭は八日、七万人の組合員が集まり、大牟田市で九州拠点総決起大会をひらいた。主婦をまじえた家族ぐるみのデモ行進に対し、会社の企業警備を支持して「ズトはいや」のビラをばり、全日いつせい休業した商店の表情が対照的だった。労使の激しい対立が市中に持ち越されたかっこうだったが、さすがに疲弊の街にあって警察と化したもので、別に騒ぎも起らなかった。北の大牟田、南の水俣と二つの表情が対照的にクロームアップされた。(Z)

病 侯 水

厚生省も「水銀説」
三鉦爭議「七万の総決起」